

緩和ケア病棟

さとわ

No.11

緩和ケア病棟「郷和」理念

1. 豊かな自然環境の中で、その人の気持ちに添ってケアするとともにその家族を支援します。
2. その人のもつ苦痛の緩和につとめます。
3. その人の希望に添って自宅での生活を支援します。

郷和のこれまでと、これから

施設長 桜井 金三

この欄に1年を振り返る記事を書いて10年となったのを機会に、これまでにふれた「キーワード」を抜き出してみました。症状コントロールに関して(倦怠感、セデーション)、スピリチュアルケア、家族・遺族ケアに関して(遺族アンケート、遺族会、家族ケア)、ボランティア、がん対策基本法、地域連携に関して(看護師・介護士への研修、休日夜間の入院)、医師・看護師不足、スタッフの健康管理などでした。

症状コントロールについてはこれで良しというレベルには決して到達していません。これからもたゆまぬ研鑽努力を続けていきます。遺族会は年1回ながら続けております。遺族アンケートはJHOPEに参加しています。今年度は久しぶりに懸案であったボランティア養成講座を開くことができました。終了された方の中から一人でも多くのボランティアが誕生することを期待しております。国の政策として緩和ケアが位置付けられて数年がたちます。確かに緩和ケアの広がりを感じられるようになっていますが、緩和ケアが深まっ

ているとはとても言えないのが日頃の実感です。新潟県の方策も少しも見えてきません。郷和から緩和ケアについての「発信」をもっと増やしていかなければならないと思います。看護師向けの研修は軌道に乗り今年も多くの参加者を得て行うことができました。介護施設との連携は今年は停滞したままでした。地域連携の主眼は在宅緩和ケアの推進ですが、近隣の医師との連携では新しい動きがありました。日頃の訪問診療はクリニックにお願いして、病棟は症状コントロールの相談を受けたり、緊急入院を受け持つというものです。まだ数名の方に行っただけですが、来年につながるものと考えております。1人医師体制も丸3年となってしまう。勤務してくださる医師がなかなか見つかりません。看護師も同様で、開設直後から勤務していただいた前師長の太室さんが退職されてから、師長は兼任となっております。

多くの課題の中で午年を迎えます。一層跳ねる年にしたいと思っております。

はじめまして

緩和ケア病棟看護師 松島 正恵

10月1日より総合病院との兼務という形で勤務しております松島です。今年は秋の訪れが例年に比べると遅く、私が参りました頃も暖かく穏やかな気候が続いておりました。そんな秋の1日、ボランティアの方と患者さまをお誘いして、敷地内の庭で散歩やお茶の時間を一緒に過ごしました。患者さまが飛ばした七色のシャボン玉が無数、これから色付こうとしている柿の葉やカリンの葉の合間を縫うように大空に吸い込まれて行きました。総合病院も同市に位置しておりますが、豊かな自然に囲まれた緩和ケア病棟「郷和」を実感いたしました。

勤務について2カ月が経ちました。ボランティアの皆さんは、寡黙で、優しく、心地よい風のように病棟内に新鮮な空気を運んでくれます。看護スタッフは、ひとりひとりが経験を積み、志を持ち、より専門性を追求したいと内にパワーを秘めております。病棟の相談を一手に引き受け日々奔走する相談員、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、クラークの皆さん。そして、医師であり、時にはホスピタル・クラウンのように、父親・息子・夫のように、いくつもの顔を持ち患者さまに寄り添う桜井医師、武藤医師。それぞれがそれぞれの役割を果たし、ひとつのチームとして共同しており、私も毎日勉強させていただいております。

厚生労働省は緩和ケアの推進について「『がん対策推進基本計画』において、緩和ケアについては、『治療の初期段階からの緩和ケアの実施』を、重点的の取り組みべき課題として位置付けており、がん患者とその家族が可能な限り質の高い療養生活を送れるようにするため、身体症状の緩和や精神心理的な問題への援助などが、終末期だけでなく、治療の初期段階から積極的な治療と並行して行われることを求めています。今後は、緩和ケアが、治療時期や療養場所を問わず患者の状態に応じて、様々な場面において切れ目なく適切に提供されるとともに、がん患者と同様にその家族も様々な苦痛を抱えていることから、がん患者のみならず、その家族に対しても心のケア等の適切な援助を行い体制を整備していくことが必要であります。」と述べています。切れ目なく適切に緩和ケアが提供されるためには、地域の連携が欠かせません。皆さまのお役

に立てるよう、また、五泉地域に施設を持つ真仁会の役割を果たすべく、職員ひとりひとりが一層の努力をしていきたいと思っております。

ボランティア講習会を終えて

看護師 高岡嘉衛

近年、異常気象による自然災害が数多く発生しており、ボランティア活動をニュースで見る機会が多くあります。ボランティア活動は自発的な活動であり、義務でも強制でもありません。当緩和ケア病棟「郷和」へも多くのボランティアが足を運んで来ています。ボランティアに関心を持ち、これから踏み出そうと思われる方たちにボランティア講習会を開催しました。

講習会は、10月3日・10日・24日・31日の計4回開催しました。18名の新規申し込み者と、現在活動されている未受講の3名に、既に講習会を受講した、先輩ボランティアの方たちもアドバイザーとして参加しました。

講義内容は第1回目に桜井医師より「緩和ケア施設郷和の理念と役割」、第2回目は吉沢看護部長より「緩和ケア病棟のボランティアについて」、第3・4回目は小池緩和ケア認定看護師より「緩和ケア看護の実際」「聴くということ」、の講義がありました。

アンケート結果より、講義内容を理解された方が多く、感想は「患者さんの思いをくみ取り、一方的におしゃべりするのではなく聴き上手になる」「患者、家族に寄り添い考える事ができるか大切」「ボランティアもチームの一員」「看護師さんの話が聞けて参考になった」「スタッフの目配り、気配りに感動しました」等と講義の目的は十分達成されたと思います。

第2回目の講義後には先輩ボランティアから「体験談」を話してもらい、よりボランティア活動のイメージができ、感想は「大変勉強になりました」「長く続けてこられた自信を感じました」「体験談がわかりやすかった。自分にもできるかもと思った」「顔の表情、生き生きしている感じを受け取りました」と、たくさんのお声をいただきました。また第3回目と4回目の講義後にはグループワークとロールプレイを行いました。参加した仲間同士で意見交換できた事で「各自の経験

した事、いろんな思いだった事などを聞き、一つでも共感できた事を感じました」と感想があり、とても良い機会で、その事でボランティア活動に対する不安が軽減した方と、逆に不安が残る方もいましたが、それぞれの想いが深まり、考えられる場の提供になったと思います。最後の感想で、がん患者へ「今を大切にしたい・・・」と述べられている方がおり、ボランティア活動だけではなく、自己を振り返る事も出来た充実した講習会でした。

全4回の講義は短期間で早足であったかな?と不安でしたが「今まで受けた事のない養成講座で大変勉強になり、感動もしました。」「ボランティアは初めてなのでとてもわかりやすかったです。」「大変自分にとって役に立つ講座でした。」などの感想を頂き、安心しました。

11月には、ボランティア活動の実習を先輩ボランティアの指導のもと体験しました。クリスマスツリーの飾り付けや、花の活け方、お茶の準備などを行いました。先輩方の指導がよく、「実習前は不安だったが先輩たちと一緒に活動出来そう…」と感想をいわれた方がおり、さすが郷和でボランティア活動を継続されている先輩たちだな、と感心させられました。実習は講義とは違い緊張と共に病棟の雰囲気を感じて頂き「時間がとてもゆったりと流れていて、明るい部屋でお茶を飲んで、クリスマスツリーを見て過ごされているのを見て、職員やボランティアが一人一人を明るく包んで、大切に接しているのが分かりました。」と緩和ケアで大切にしている事を感じて頂き嬉しく思いました。新規ボランティアの方たちは、これから多くの学びが得られると思います。今の気持ちを忘れず一緒にチームの一員として活動して頂きたいと思えます。

この1年の行事

1月 鏡開き

初釜



2月 節分豆まき

3月 ライアーコンサート

4月 お花見

5月 コースター作り

6月 手品ショー

七夕飾り付け

7月 七夕短冊書き

8月 ライアーコンサート

11月 そば打ち

12月 クリスマス会



最近麻薬の種類や剤形が増え、患者の選択できる幅が広がっています。今月発売になったものは舌下で溶かす剤形で、とても服用しやすくなっています。しかし種類が増えることによって管理や施用も煩雑になり、現場の管理は大変になります。施用する側の医師と看護師には常々口うるさく管理をお願いしていますが、日々のご協力本当に感謝しております。

数ある薬剤の中で最も痛みを取り、緩和医療の現場で一番使用している薬剤は麻薬です。それ故に麻薬の管理はとても厳重で細かくなってしまいます。それほど麻薬は重要な薬であるということを理解して頂き、事故が無く、患者が快適な入院生活を送る手助けが出来ればと思っています。

今年度は特に、入院してくる患者が大量の持参薬を持ち込むケースが多い年でした。来た段階で麻薬が適正であればいいのですが、最終的に廃棄する事が多いのが現状です。今年度の当院での麻薬の種類と廃棄量と金額(薬価換算)を一覧にまとめてみるとこのようになりました。

	廃棄した麻薬の成分	廃棄した数	廃棄した金額 (薬価換算)
ベース内服薬	オキシコドン3規格	160	67,446.4
ベース外用薬	フェンタニル4規格	6	4,624.7
レスキュー内服薬	モルヒネ1規格、オキシコドン3規格、コデイン1規格	571	7,533.1
レスキュー外用薬	モルヒネ1規格	11	68,867.0

薬価換算では 14 万 8,471 円を1年間で廃棄した計算になります。レスキュー内服薬が最も多くなっていますが、実は1人の患者が大量に持参したためこのような数になりました。この金額は全て患者負担の金額です。更にこの数を患者が管理することは難しく危険です。看護部も緩和学会で不要廃棄麻薬の発表をしましたが、適正な処方をして欲しいと願っています。

「郷和」利用状況

(H.24年4月~H.25年3月)

入院患者数 137名

一日平均入院利用者数 14.4名

平均病床利用率 71.8%

平均在院日数 36.5日

発行年月日 平成25年12月27日

編集・発行 南部郷厚生病院

緩和ケア病棟「郷和」

〒959-1765 新潟県五泉市愛宕甲2925-2

TEL(0250)58-6111(代) FAX(0250)58-7300